

診療科	午前・午後	月	火	水	木	金
総合診療救急科	内科系 午前 午後(救急車のみ)	河上 彩恵 久世 瑞穂 高橋 将成	前田 由起子 河上 彩恵 徳原 教	交代診療 前田 由起子 水上 和也	前田 由起子 前田 彩恵 高橋 将成	前田 由起子 久世 瑞穂 木村 銀河 不整脈外来 (第3金曜日)【予約】 木村 銀河 ペースメーカー外来(第1金曜日)
循環器内科	午前 午後 (診療 13:00～)					
心臓血管外科	午前【予約】		吉田 俊人(※1)			
呼吸器内科	午前 1診 2診	相澤 佐保里 水島 亜玲	原田 敏之 谷口 菜津子	原田 敏之 谷口 菜津子	長井 桂 水島 亜玲	長井 桂 森永 有美
消化器内科	午前 1診 2診 3診【予約】 午後(診療 14:00～)	小山 智之 馬場 英 田口 純【化学療法】 坂本 直哉【予約】	田中 智之 定岡 邦昌 合田 智宏【化学療法】	古家 乾 菅野 究 竹内 啓【化学療法】	大原 正嗣 定岡 邦昌 菅野 究	田中 智之 馬場 英
腎臓内科	午前 午後【予約】	山本 準也 山本 準也		工藤 孝司 工藤 孝司	山本 準也 山本 準也	工藤 孝司 工藤 孝司
膠原病内科	午前【予約】 午後【予約】	志田 玄貴 志田 玄貴	津田 敏和 津田 敏和		志田 玄貴 志田 玄貴	志田 玄貴 志田 玄貴
糖尿病・内分泌内科	午前 1診 2診 午後 1診 2診 【予約】	大西 錦之介 大西 錦之介(13:00～)	半田 喬久 大西 錦之介	大西 錦之介 大西 錦之介(13:00～)	半田 喬久 亀田 玲奈	半田 喬久 半田 喬久(14:00～)
内科	午前 1診 2診		大江 真司【予約】 前田 由起子	竹内 正	大江 真司【予約】	
小児科	午前 1診 2診 3診 4診 一般 慢性外来 【予約】 新生児フォロー アップ【予約】 乳児健診 【予約】 午後 (診療 13:30～)	板倉 治 椿 淳子 長 和俊(10:00～)	板倉 治 椿 淳子	板倉 治 椿 淳子	板倉 治 椿 淳子 中久保 佐千子(9:00～) (月2回)【神経】【予約】 長 和俊(10:00～)	出張医 椿 淳子 長 和俊(10:00～)
整形外科	午前 1診 2診 3診	庄野 泰弘 酒井 俊彦 浅野 毅	庄野 泰弘 酒井 俊彦 浅野 毅	庄野 泰弘 沼口 京介 浅野 毅	芝山 浩樹 酒井 俊彦 富田 健二郎	芝山 浩樹 寺島 理代 浅野 毅
外科	午前 一般 専門外来 (初診・紹介) 午後 (診療 14:00～)	肝・胆・脾外科 乳がん検診	乳腺・甲状腺外科 乳がん検診	胆石症外来 乳がん検診	呼吸器外科(肺癌、気胸、腫瘍) /内視鏡外科 乳がん検診	そけいヘルニア (脱腸)外来 乳がん検診
泌尿器科	午前 1診 2診 午後(診療 14:00～)	高柳 明夫 岡部 洸 高柳 明夫	岡部 洸 林 優里 岡部 洸	高柳 明夫 高柳 明夫	出張医 林 優里 出張医	出張医 岡部 洸 出張医
産婦人科	午前 1診 2診 3診 4診 午後 (診療 14:00～)	山田 俊【予約】 交代診療(予約外) 小山 貴弘【予約】 助産師外来(妊婦健診) 交代診療	小山 貴弘【予約】 交代診療(予約外) 佐々木 瑞恵【予約】 助産師外来(妊婦健診) 佐々木 瑞恵	小田 泰也【予約】 交代診療(予約外) 山田 俊【予約】 助産師外来(妊婦健診) 山田 俊【予約】	佐々木 瑞恵【予約】 交代診療(予約外) 高岡 真佐人【予約】 助産師外来(妊婦健診) 交代診療	山田 俊【予約】 交代診療(予約外) 吉瀬 馨【予約】 産後健診
眼科	午前 1診 2診 午後 (診療 14:00～)	藤尾 直樹 伏津 望	藤尾 直樹 伏津 望	藤尾 直樹 伏津 望	藤尾 直樹 伏津 望 藤尾 直樹 伏津 望	藤尾 直樹 伏津 望
耳鼻咽喉科	午前 1診 2診 午後 (診療 14:00～)	原渕 翔平 太田 亮	原渕 翔平 太田 亮	原渕 翔平 太田 亮	原渕 翔平 太田 亮	原渕 翔平 太田 亮
皮膚科	午前 1診 2診 午後 (診療 14:00～)	執行 延明 大瀧 佑介	執行 延明 大瀧 佑介	執行 延明 大瀧 佑介	執行 延明 大瀧 佑介	執行 延明 大瀧 佑介 (交代診療)【予約】
麻酔科【バインクリニック・予約】	午前	実藤 洋一		神田 知枝		笠井 裕子
放射線診断科	午前	杉浦 充			杉浦 充	
禁煙外来【予約】	午後(診療 13:30～)	河上 彩恵				

※1：第1・第3月曜日の翌日の火曜日



独立行政法人
地域医療機能推進機構

北海道病院 広報誌

Vol.48

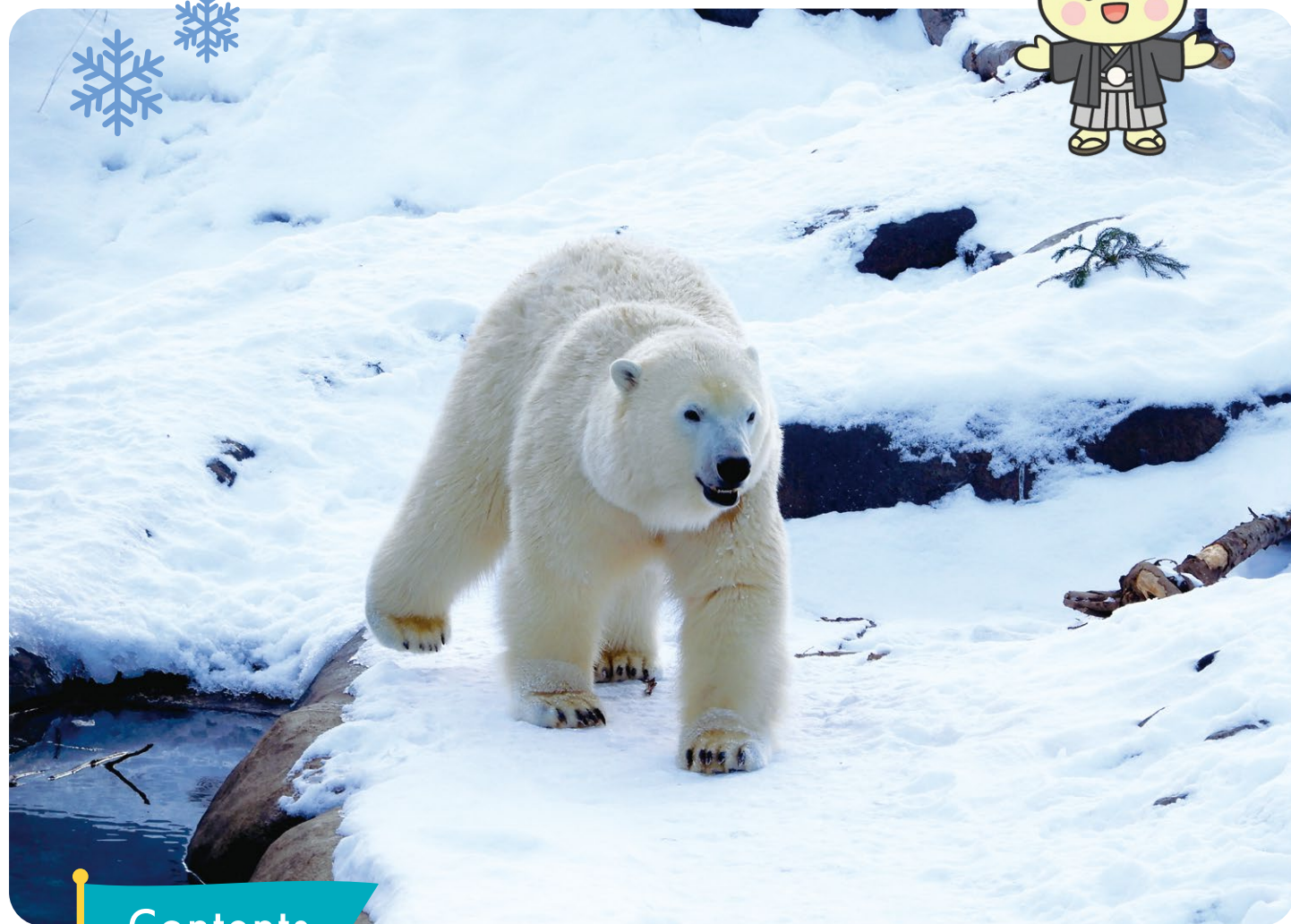
令和8年
1月●日発行

JCHO北海道病院 だより

特集

P1～3 新年のごあいさつ

P4 今号の診療科 | 眼科のご紹介



Contents

P5 連携医療機関の紹介

P6 研修会報告 / 第68回 リバーサイド消化器懇話会
/ 市民公開講座「地域講演会」

災害救急指定日

今号の一枚 ～表紙写真紹介～



新年のごあいさつ

病院長 古家 乾

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

旧年中は当院に賜りました格別のご厚情に対し、心より御礼申し上げます。

コロナ禍の明けた2023年、2024年は、多くの病院に経営的に厳しい風が吹き荒れました。これは単にコロナの助成金がなくなった事やコロナ後の患者数の回復の遅ればかりではなく、エネルギーと物価の高騰、円安などの経済環境の中で「公定価格」である診療報酬が病院経営に見合っていないことが原因でした。漸く、昨年末に政府の補正予算や2026年度の診療・介護報酬の改定の方針が決まり、今までの状況よりは明るい兆しが見えてきたように感じています。いずれにせよ、社会福祉・医療を行う非営利組織の存在・経済価値をどのように評価するのかは大きな課題と思われます。

新年にはやはり明るい話題が必要だと思います。この2月にはミラノ・コルティナの第25回冬季オリンピックが開催されます。1956年以来、70年ぶりの冬季オリンピックの開催になるようです。2030年の札幌オリンピック招致は断念されましたが、2038年までは事実上、札幌開催は無理のようです。その後となると2042年になりますが、1972年の札幌冬季オリンピックの丁度70年後に当たります。1972年前後で豊平区、南区はもとより札幌市全体が急速に発展したのは事実ですが、2021年の東京オリンピックの汚職事件などもあり、札幌での開催は見通せません。

当院ではこの1月末ごろより、電子カルテへの問診等のAI音声入力を試験的に開始します。約1年がかりで音声入力を含むスマホと電子カルテの連携を構築していく予定です。人口減少、医療従事者数の減少などに対応すべく、医療の質と効率性を担保したIT・AI技術の導入を少しずつ着実に進めていければと考えております。

今年は午年で「全てウマく行く」かは、神のみぞ知るところですが、丙午の熱い情熱と冷静さを持って職員一同邁進していく所存です。

本年も何卒よろしくお願い申し上げます。



副院長(消化器センター長・総合支援センター長) 数井 啓蔵

2025年は、当院は6月に病院機能評価の審査を受け、見事1発合格を手にすることができました。ひとえに職員が一丸となった準備と改善点への取り組みの賜物と考えます。さて、2025年は日本にとって大きな転換期となったかもしれません。10月21日には高市早苗さんが日本初の女性総理大臣に選出され、財務大臣にも片山さつきさんが就任いたしました。女性が活躍した年と言えるでしょう。それまで誰が総理大臣になったところで日本は変わらないと思っていましたが、高市総理の強いリーダーシップで日本は変わってきています。石油の暫定税率廃止、物価高騰により厳しい医療介護現場に対する支援、責任ある積極財政など、これまで手をつけなかった分野への積極投資は国民の期待感を増します。

補正予算による病院への補助金、診療報酬の30年ぶりの大幅プラス改定の決定、病院経営に一条の光を見たような気がします。しかし、個々の病院もさらに経営改善の努力をしていかなければ、超高齢化社会に向かった地域医療構想から脱落してしまう恐れがあります。当院は地域医療支援病院として地域医療を支えることを第一に考え、年間全麻手術件数2,000件、救急車受け入れ2,000件を目標として急性期充実体制加算の施設基準を満たせるよう職員一同努力していきたいと考えております。地域の先生方と、顔の見える医療を心がけていきますので、本年もどうぞよろしくお願いいたします。



副院長(周産期医療センター長) 長 和俊

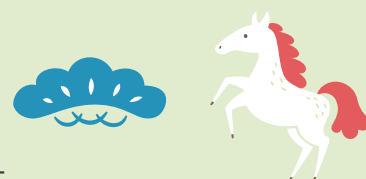
新年明けましておめでとうございます。報道されておりますように、全国の医療機関は物価高騰の影響を受けて苦しい運営を強いられております。当院においても物価高騰の影響を強く受けているところですが、古家院長の指示のもと、病床の積極的運用、新しい診療技術や医療DXの導入などにより業務改善に努めております。令和7年度には、日本医療機能評価機構による評価に合格することが出来ました。小児・周産期医療におきましては、急速に進行する少子化の影響を受けて、札幌市でも関連医療機関の閉鎖や縮小が相次いでおります。当院におきましては、周産期医療機能の維持・拡大や社会的ハイリスク家庭への支援などを通して、少子化の影響を受けにくい医療の展開に努めております。本年も、地域に根ざした医療を展開してゆく所存でございますので、一層のご指導・ご支援宜しくようお願い申し上げます。



新年のごあいさつ



副院長 長井 桂



新年あけましておめでとうございます。

2025年は特に後半インフルエンザが猛威をふるい、11・12月は病床がひっ迫しました。二次的に呼吸器疾患が悪化する場合や、転倒骨折、脱水・体動困難のために救急搬送される患者さんが多くなり、当院の地域連携室のスタッフが毎日頭を悩ませながら個室や隔離病室の調整を行っています。救急委員会を定期的に行い、より多くの患者さんを受け入れるため、去年は**外来検査や放射線診断の時間短縮**や、**外来から病棟への移動をなるべく早く**できるようにスタッフ間で相談を行いました。入院患者さんに対しては、Rapid response system (RRS) を立ち上げ、**体調が悪化した患者さんの早期への取り組みを開始**しました。リニューアルしたJCHO健康まつりは昨年その第2回目として、子供から大人まで楽しめる医療体験や健康測定、健康講話の他、ファイターズのBB君が応援にかけつけ、チアパフォーマンスや和太鼓演奏など大変もりあがりました。当院が地域の方々に頼りにされ親しみをもってもらうために、今後も活動を続けますのでどうぞよろしくお願い致します。

付属介護老人保健施設 診療部長

大江 真司



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

去年は、コロナのクラスター発生もなく、インフルエンザやノロウイルスなどの感染症も、初発時から迅速に個室管理と治療を行うことで、他の入所者への拡大を防ぎ、短期間で収束させることができました。入所者の皆さまは超高齢で基礎疾患も多く、肺炎、尿路感染、蜂窩織炎、带状疱疹などを発症しやすい状況にあります。が、**早期発見と適切な薬物治療により、多くの方が1週間以内に回復**されています。老健での対応が難しい場合には、**併設病院の専門医と速やかに連携し、重症者を防ぐ体制も確立**しております。

近年は、百歳前後の入所者が増え、ご家族と看取りについて話し合う機会も多くなりました。超高齢や認知症のため意思決定が難しくなる前に、人生観や今後の過ごし方について共有する重要性を、日々の診療を通じて強く感じております。

本年も、利用者の皆さまの尊厳と安心を守り、より質の高い医療とケアを提供できるよう、スタッフ一同、誠心誠意努めてまいります。引き続き皆さまのご指導とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



今号の
診療科

眼科のご紹介

眼科診療部長 藤尾 直樹



人は情報の80%を視覚から得ています。また人間の五感による知覚(情報判断)の割合は「**視覚83.0%、聴覚11.0%、嗅覚3.5%、触覚1.5%、味覚1.0%**」と言われています。

多様化する現在のデジタル社会においてますます目から得られる情報の重要性が増しています。



藤尾部長

当院の眼科について

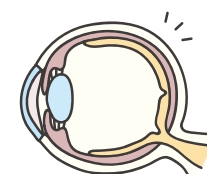
当院の眼科では**常勤医師2名**で診療を行っています。そして、視能訓練士など検査を担当するコメディカル2名、看護師1名の体制です。眼球は小さな組織ですが、たくさんの病気があります。対象となる患者さんも年齢を問いません。

目は小さな臓器ですが大事な視覚情報を扱うため繊細な機械のような構造をしておりその働きも複雑です。そのため多くの疾患があり眼科の中でも専門化が進んでいます。できるだけ多くの疾患に対応させていただきますが、機器の不足などにより要望にお応えできない場合もあります(その場合は連携病院と相談しながら対応させていただきます)。

治療について

行っている治療としては**白内障手術**が最も多く、入院を希望される方に手術を行っています。また全身疾患をお持ちの方もできる範囲で対応させていただきます。

そのほか近年増加している**加齢黄斑変性症**や**糖尿病網膜症**、さらに**網膜静脈閉塞症**に対して**硝子体注射**による治療を行っています。**前眼部の小手術**も対応できます(ただし形成的側面が強い疾患に対しては眼形成外科にお願いしています)。



Point

総合病院のため**糖尿病を始めとして膠原病や腎臓、心臓、呼吸器など内科的疾患に付随した眼疾患**の方も多く受診されており、他科と連携して診療にあたらせていただいています。



眼科疾患のうち、**緑内障**は自覚症状からは早期発見が難しく、進行してから受診される方が少なくありません。早期発見早期治療にも尽力していきます。

患者さんにとって何が一番良いのかを考えながら診療にあたらせていただきます。
目のお困りごとがあればご相談いただければ幸いです。





北海道病院とともに、地域の皆様の健康を支える
診療所・クリニックを紹介します

連携医療機関の紹介



医療法人lead

南22条おとなとこどものクリニック

JCHO北海道病院だよりに掲載の機会をいただき、ありがとうございます。

当クリニックは、買い物ついでに立ち寄りやすい**アクロスプラザ南22条のショッピングモール**内にあり、広い駐車場を備えた通院しやすい環境が整っています。内科と小児科を併設した**“家族で通えるかかりつけ医”**として診療を行っています。



小林 俊幸 院長

小児科では、発熱・咳・胃腸炎などの**一般的な小児疾患を中心に診療**しています。内科では、かぜや腹痛などの**急性疾患**から、高血圧・脂質異常症・糖尿病といった**生活習慣病**まで幅広く対応しています。さらに近年相談が増えている**睡眠時無呼吸症候群の検査・治療**にも取り組んでいます。



診療では**「丁寧な説明」と「安心して相談できる雰囲気づくり」**を大切にしています。オンライン問診やWeb予約、自動精算機の導入など、受診から会計までの動線がスムーズになるよう工夫を重ねています。また、患者さんが無理なく治療を続けられるよう、一人ひとりの生活リズムに合わせた柔軟な対応を心がけています。

地域の医療機関との連携も重視し、必要に応じて速やかに精査・専門医へ紹介しています。

今後も、地域の皆さんの健康を支える身近なクリニックとして歩んでまいります。どうぞお気軽にご相談ください。

医療法人lead

南22条おとなとこどものクリニック

〒064-0922

札幌市中央区南22西7-1-27アクロスプラザ南22条2F

電話予約 TEL: 050-3173-7832

ホームページからWEB予約も可能です

ホームページはこちら

<https://south22-clinic.com/>



受付時間	月	火	水	木	金	土
9:00~11:30	●	●	●	-	●	●
14:00~15:00	▲	★	■	-	★	-
15:00~17:30	●	●	●	-	●	-

▲予防接種・健診 ★予防接種 ■コロナワクチン・健診

TOPICS1

第68回 リバーサイド消化器懇話会

令和7年11月18日(火)第68回リバーサイド消化器懇話会を開催しました。会場とオンラインを併用したハイブリッド形式で開催し、参加者は院内医師15名、院外医師33名、メディカルスタッフ6名、合計54名と沢山のご参加をいただきました。

「腸石を伴ったメッケル憩室によるイレウスの検討」「膀胱瘻を形成した盲腸癌の検討」「骨盤内脂肪肉腫症例の検討」の3題の講演後、特別講演として、さっぽろ香雪病院 萱沼圭悟先生より「元循環器内科医・現精神科医から見たBPSD治療」についてご講演いただきました。

次回開催のお知らせ

今回は**2026年3月**の開催予定となっております。

決まり次第追ってご連絡をいたします。

皆様のご参加をお待ちしております。



TOPICS2

市民公開講座「地域講演会」

令和7年11月14日(金)中の島まちづくりセンターにおいて市民公開講座「地域講演会」を行いました。

今回は、腎臓内科医長 山本先生による「慢性腎臓病(CKD)～あなたは自分の腎機能を知っていますか?～」、放射線部診療放射線技師 杉山さんによる「骨密度測定について」の2題の講演を行い、9名の参加がありました。

講演内容を熱心に聴かれていた様子があり、終演後に山本先生のもとに聴講者が質問に訪れる様子がありました。

今後も地域住民に向けた講演会を望む声をいただきました。肝臓疾患やがん、糖尿病などの講演を望む声があったため、取り入れられるよう検討・準備していきます。

次回もたくさんのご参加をお待ちしております。



災害救急指定日

令和8年

2月 10日(火)
28日(土)

3月 20日(金・祝)
31日(火)

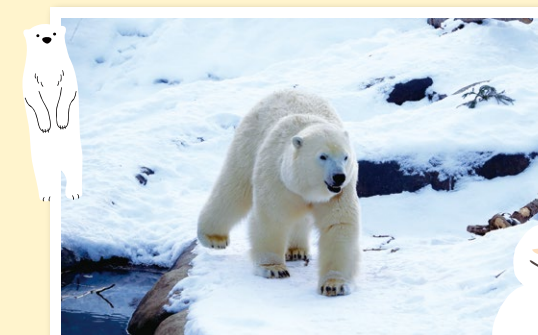


※災害救急指定日は、やむを得ぬ事情により変更する場合があります。毎日の新聞紙等でご確認ください。

今号の1枚

表紙写真紹介

大きな体でのしのし歩く姿は迫力があるけど
内股で愛らしいホッキョクグマ。
円山動物園へ行くと、ついつい長居をしてしまいます。



撮影者：健康管理センター M